



高山西ロータリークラブ

# 例会報告

第 2630 地区 岐阜県 濃飛分区 創立 1966 年 1 月 15 日

- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
- 例会場 高山市花里町 3-33-3 TEL 34-3988
- 会長 田中 武
- 幹事 門前 庄次郎
- 会報委員長 田中 正躬



春サーファー 蜘蛛 康介

## <会長の時間>

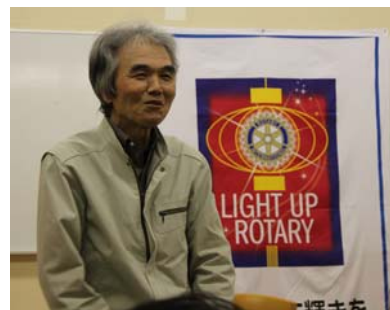
皆様、こんにちは。本日はロータリーの五大奉仕のうち職業奉仕です。堺委員長の職場訪問例会で飛驒産業株式会社さんへ訪問させて頂いています。



会員の岡田賛三さんとは小中学校の同級生で昔から良く知ってまいって当時は仕事もさせて頂いていました。その頃の賛三さんは富士屋ホームセンター（パローも）の社長をされていまして持前の才能を遺憾なく発揮され、私の知っている限りでは、凄く勉強家で家族思いの人です。今でも覚えているのが、経営者は、人より早く出て人より遅く帰るその日の事を反省し次の日の戦略を etc そのような事を常に言っていたような気がします。一方私は、今夜はどこへ遊びに行こうかなとか、何か面白い事がないかなとか、こんなことばかりでした。それから賛三さんが凄いと思った事は、現在の飛驒産業の社長になれる人だとは当然思っていました。木に対する執念といえますか、木に対する知識、特に杉材～圧縮が、もう我々建築屋の木の知識位ではなくもう超越しています。建築材では、杉材、カラマツ材は建築材としては余り、特に高山では使いません。何故かと言うと杉材はやわらかく柱には使いましたが梁材には使いません。カラマツ材は、昔は土台に振れが多く、木の棘が有りこれも使いません。そんな材料を見事に甦がえされました。

飛驒はやはり木の国です、飛驒の匠の歴史文化も有ります。賛三さんは会社案内にこんなことを書いています。「ひとりひとりのお客さまを大事にしたい。そうして10年20年、100年経ったときの『蓄積シェア』をたかめてゆきたい。それが私の夢であり、会社の夢です。」と。木の国飛驒には賛三さんみたいな人がいたことを誇りに思います。後100年は生きて下さい。参考ですが漢字の（贊）を調べましたら、字画は19画で、意味は、ほめたたえる・ほめる・たすける、らしいです。別に意味は有りません。賛三さん、会社の想いを十分に語ってください。今日は宜しくお願い致します。今後共ご活躍をお祈り致します。

など、技術的にもデザイン的にもこれまでに多くの賞を受賞され大変話題性の多い企業です。岡田社長さん自身も2年前に東海・北陸地域で活躍する起業家として表彰されております。このような会社を訪問することにより業種は異なりますが、会員の皆様方の会社におきましても得るところがたくさんなのではないかと思えます。本日はよろしくお願いたします。



## <本日のプログラム>

### 職業奉仕委員会

委員長 堺 和信



本日は、職場訪問例会ということで「飛驒産業株式会社」さんを訪問させていただきました。5～6年前、名田町に本社があるところに1度訪問させていただき、曲げ木の技術や圧縮加工技術などを見学させていただきましたが、その後本社を漆垣内町に移転し本社工場も新築され、上宝や北海道にも工場を建てられ売り上げも毎年順調に伸ばされております。また、本日の中日新聞にも掲載されておりましたが、「腰にやさしい椅子シリーズ」で中小企業優秀新技術・新製品賞の奨励賞を受賞される



ロータリーに輝きを